## 歌の周辺

大学時代、歌を作り始め、やがて朝日歌壇に投稿するようになった。初投稿は昭和38年8月で、「夏まひる木を挽きつくししんしんと丸のこぎりは回りけるかも」の作が五島美代子選に入った。嬉しくなって投稿を続けた。そのうち詩的な内容の短歌を詠みたくなり、この「青春は」の歌を詠んだら宮柊二選に入った（昭和39年7月）。まさかこんな歌が採られるとは、と深い喜びを感じた。「みづき」は時おり散歩した小石川植物園の中で知った樹木、また「線路」は東京から郷里愛媛へと続いている線路を思い浮かべて詠んだ。入選のあと間もなく私は「コスモス」に入会した。　（高野公彦）

（写真・木畑紀子）

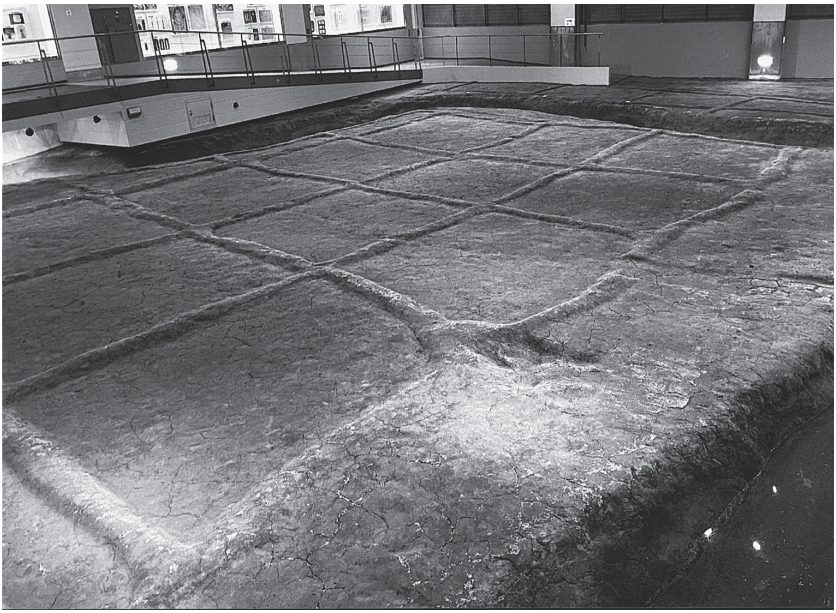
高野公彦うた紀行・25

青春はみづきの下をかよふ風あるいは
遠い線路のかがやき

――『水木』

【鑑賞】青春ただ中の歌。「みづき」「風」「線路」「輝き」という言葉選びが美しい。爽やかで明るい印象がある一方、「下」「遠い」から翳りも存在する。上句で風の動きに自由を感じ、下句は遥かな視線を誘い、故郷をそして未来を見つめる。風と輝きという摑めそうで摑めない二つのことを、「あるいは」で繋げることで読者は、青春時代の作者の心の揺れを共有する。

（水上芙季）



ふるさとコレクション——196

**弥生時代水田跡**（青森県南津軽郡田舎館村）

東北北部の弥生文化には稲作農耕はないと言われていた。それを覆したのが田舎館村の垂柳（たれやなぎ）遺跡だ。

1981年に東北地方で初めて，弥生時代（中期）の水田跡が良好な状態で発見された。2000年には国の史跡に指定されている。

田舎館村埋蔵文化財センターは水田跡の一部をほぼそのままの状態で保存し，遺構露出展示という形をとっている。見学者は水田跡に降りて行ってじかに歩くことができ，弥生時代の水田の区画や水路の工夫，畔の状態を間近に見ることができるのだ。

また木製の鍬や煮炊きに使ったと思われる土器，土器に付いた稲籾や炭化米の展示は興味深い。

さらに別の展示エリアでは，水田に残された弥生びとの足跡をいくつも見ることができる。大人から子供のものまであって，家族総出で稲作農耕に励んでいた日常を思わせる。

約2100年もの時を飛び越えて弥生びとの確かな息づかいが伝わってくる場所である。

（写真・解説：佐々木佳子）